

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和5年度 雄山高等学校アクションプラン		- 1 -
重点項目	(1 学習活動) 学習活動	
重点課題	教科指導方法の改善と基礎学力の定着・充実	
現状	・与えられた課題に真面目に取り組んでいる生徒がいる一方で、自身の進路に対する具体的な目標を明確に持てないため、学習意欲が低く、家庭学習時間が十分に確保できていない生徒もいる。また、予習・復習にかける時間に個人差があり、基礎学力が十分に定着していない生徒が多い。 ・教員間での互見授業や生徒に対して授業アンケートを行い、校内外の教員や生徒からの評価をもとに、各先生方で授業改善に取り組んでいる。	
達成目標	①生徒の授業内容の理解度 5段階評価で4以上とした生徒の割合	②学習内容を理解するための、粘り強い取り組みの状況 5段階評価で4以上とした生徒の割合
	60%以上	60%以上
方策	・ワークシート等を用いて、生徒の理解度を把握し、授業改善につなげる。 ・授業アンケート(7月・12月)を実施し、実態を把握する。 ・ICTを活用し、理解や思考の深まりを促す。 ・生徒の主体的な学びを促すために、ペアやグループでの協働的な学びの場面や自らの考えを広げて深める対話的な学びの場面を設定する。	・授業アンケート(7月・12月)を実施し、実態を把握する。 ・基礎学力定着に向けて週末(週間)課題等を工夫して与え、生徒が学習習慣を身に付けられるようにする。 ・担任による個別面接等で生徒の学習の取り組み状況を把握し、進路目標と絡めて主体的に学ぶ意欲を喚起する。 ・具体的な進路目標をもたせられるよう学年や進路指導部と連携をし、自分に合った学習の進め方を考えさせ、計画的に学習に取り組ませる。
達成度	質問1：説明がわかりやすかったか 1年：74% 2年：77% 3年：72% 全体：74.3% 質問2：興味・関心をもつことができたか 1年：68% 2年：70% 3年：68% 全体：68.7% 質問3：ポイントを明確につかむことができたか 1年：64% 2年：70% 3年：66% 全体：66.7% 質問4：自分の考えを深めたり、視野を広げたりすることができたか 1年：59% 2年：65% 3年：62% 全体：62.0% 平均 67.9%	質問1：予習・復習に十分な時間をかけたか 1年：37% 2年：46% 3年：46% 全体：43.0% 質問2：授業に意欲的に取り組んだか 1年：76% 2年：79% 3年：72% 全体：76.0% 質問3：学習内容を理解しようと粘り強く取り組んでいたか 1年：57% 2年：62% 3年：58% 全体：59.0% 平均 59.3%
具体的な 具取組状況	・生徒に授業の振り返りを記入してもらい、生徒の理解度、現状の把握をしながら、各教員が授業改善につなげていく。また、生徒が考えをまとめたり、深めることができるようにその前段階の知識や技能を理解し習得できるように、丁寧に授業を進めている。 ・授業の中で、生徒同士での話し合い・教え合いの場を必要に応じて設け、わかる生徒が、ほかの生徒に教えるなど、生徒の理解が進むようにした。	・評価の3つの観点のうち、主体的に取り組む態度の評価は、授業中のみでなく、課題やノートの取り組み方についても評価することを生徒にも共有した。 ・基本事項を押さえられていない生徒への補習を行い、学習意欲をもたせるようにした。 ・将来の進路を明確に考えられるよう、進路ガイダンスや企業訪問、校外進路学習、総合的な探究の時間を活用して、生徒が自分の適性や興味、自分の強みについて考える機会を多くもたせた。
評価	A ・達成した。	B ・ほぼ達成した。
学校評議員の 意見	・きめ細やかな指導・支援の手立てや工夫はきっと生徒達の今の学びと将来における学びに必ず生きて働くものになると感じた。 ・今後も生徒の理解度やつまづきを把握し、生徒に合った関わりをお願いしたい。 ・ICT活用やペア・グループ学習など生徒同士の対話的学習や協働的学習で視野を広げ、考えを深めるなど学習の効果を上げているので、生徒が主体的に学習できる環境をより工夫してほしい。 ・達成目標値の60%という設定はやや低いように思う。80%程度に設定したうえで、新たな取り組み方法の検討を期待する。	
次年度へ向けて の課題	・今後も授業での対話的な学びや協働的な学びを通して、生徒の視野を広げるとともに、丁寧な指導を行い、主体的に取り組む態度の向上、生徒の理解度の向上につなげたい。 ・今後も生徒の学習状況を把握しながら、各教員が授業改善に取り組み、生徒がその学習を通して成長したという実感をもてるようにする。	・今後も学年や進路指導部と連携しながら、生徒が進路目標を定め、各自の進路実現までの見通しがもてるようにガイダンスの機会を多く設けていく。 ・理解が進むような問題の解き方や粘り強く取り組む力を身につけられるよう、今後も継続して指導していく必要がある。生徒の実態に応じて、意欲的に取り組むきっかけを与えられるよう学年・教科担当と連携していくことが重要である。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

重点項目	(2 学校生活) 規範意識の向上と保健指導	
重点課題	遅刻数の減少	自己解決能力を育む
現状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人あたりの年間平均遅刻数は下記のように推移している。 H23年度…1.30回 H30年度…1.06回 H24年度…1.34回 R1年度…0.92回 H25年度…1.32回 R2年度…0.43回 H26年度…0.95回 (R2は4,5月休校) H27年度…1.11回 R3年度…0.85回 H28年度…1.13回 R4年度…0.78回 H29年度…0.94回 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の不調が睡眠不足や生活習慣の乱れにつながり、授業や部活動に集中できない生徒がいる。 コロナ禍の影響もあって人間関係が希薄になり、悩みや不安の解消方法がわからない生徒が増えている。 保健室の来室状況において「気持ち」が来室理由の上位にある。
達成目標	①生徒一人あたりの年間平均遅刻数	②心の不調に対する自己解決能力の育成
	1.0回未満	生徒が、悩みや不安に対処するための知識やスキルを獲得する。
方策	<ul style="list-style-type: none"> 8:40着席を徹底させる。 遅刻回数が目立つ生徒に対して面接指導を行い、改善を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを年2回実施し、自分の生活を振りかえって心身の健康課題を把握し、それを改善する方策について考える機会とする。 「保健だより」や生徒保健委員会で、ICTを活用し、心身の健康に関する情報を発信する。 SCによる講話等を行い、心の健康を保つための知識と理解を深める。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 1学期 155回(前年度157回) 2学期 178回(前年度173回) 3学期 13回(前年度13回) ※1/16現在平均遅刻数は 0.89回 複数回遅刻者 計81名 1年13名、2年33名、3年35名 ※前年度複数回遅刻者 計56名 (1年15名、2年26名、3年15名) 	<p>アンケート(11月実施)結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分のストレスの状態や傾向がわかりましたか?」と聞いたところ、よく分かった、まあまあ分かったと答えた生徒は82%だった。 「他の人のストレス解消法をみてどうでしたか?」と聞いたところ、とても参考になった、まあまあ参考になったと答えた生徒は85%だった。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 学年、担任に対して、8:40着席指導の協力を求めた。 生徒玄関前に立ち、登校の様子等を巡視するようにし、特に時間ぎりぎりに登校してくる生徒に対しては、声かけ指導等するようにしている。 遅刻2回の生徒に対して面談を行い、原因を振り返らせるとともに、改善策を立て実行を促した。 遅刻回数が多い生徒については、学年と協力して奉仕活動を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> SCによる講演会(1年生対象)やコミュニケーション講座(2年生対象)を実施し、メンタルヘルスやコミュニケーションについての知識やスキルを学んだ。 アンケート結果を個人ごとに渡し、同時に他人の対処方法も紹介した。自分のストレスの状態や傾向を確認し、ストレスに対する対処方法の幅を広げることができた。 生徒保健委員会で、Canvaを使って、前向きになる言葉などを紹介するポスターを制作し、文化発表会や保健室前廊下で発表した。 保健だよりで心の健康に関する情報を知らせている。
評価	B <ul style="list-style-type: none"> 2学期終了時点では、目標が達成されているものの、複数回遅刻者が前年に比べて大幅に増えた。 	B <ul style="list-style-type: none"> 自分のストレスの状態や対処方法について知ることができた。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数以外に、その原因を改善するための目標設定が必要では。 遅刻、長期欠席の生徒や悩みを持っている生徒、どの生徒に対しても対応は複雑で難しいと思うが、生徒の声を丁寧に聴き寄り添った支援をお願いしたい。 心身の健康を保つための知識や理解は、自分に合った心の持ち方や心に届くものを得る機会となると思われるので、引き続きお願いしたい。 数値目標の達成にとらわれすぎず、結果よりも当該生徒との関わりを継続していくことが大切。「あの時、厳しくも優しく粘り強く声かけしてくださった雄山高の先生がいた」という事実は、生徒の生涯の財産になるのでは。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻の理由として多かったものは、体調不良が最も多かった。(前年度:寝坊)体調が戻ってから登校するなど、本人や保護者から連絡が入ることがあり、これらのケースをどう扱うか検討していきたい。 欠席する生徒が多い日が目立った。長期欠席している生徒も数名見られるものの、安易な理由による場合もあるのではないかとと思われる。コロナ禍での対応による余波も考えられるが、改めて生活習慣の見直しや改善に努めさせるとともに、生徒個々に応じた指導を進め、時間を守る意識と先を見越した行動ができるよう指導していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果によると、ストレスを感じたときに「つらい気持ちを表に出さず明るく振る舞う、忘れるようにする」といった「気持ち押し込め・否認行動」をしがちな生徒もいる。今後は、身近な人に相談する力や、ストレスへの感じ方、考え方の変換等の対処行動について学ぶことが必要である。 自分のことを相手に伝えるコミュニケーションスキルの向上やリフレーミングを取り入れた活動を行いたいと考えている。 ストレスをため込んで心身に悪い影響が出る前に自分でうまく対処できるようにする方法について、さらに知識や理解を深めていくことが大切である。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

重点項目	(3 進路支援) 進路実現を図るための基礎力の充実	
重点課題	進路意識の向上と進路支援の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・社会とのかかわりの中で自己を見つめ、自らの進路を具体的に考えようという意識に乏しい生徒が多い。 ・進路実現に向け、向上心を持って主体的に挑戦する姿勢に乏しい。 	
達成目標	① 1、2 学年生徒へのアンケートで、自己の進路選択に活用するため、進路学習に積極的に取り組むことができたとする生徒の割合	② 3 学年生徒へのアンケートで、進学補習・面接練習・個別指導などの進路支援に対して肯定的にとらえていた生徒の割合
	90%以上	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・適性検査及び進路ガイダンス、校外進路学習、職業人講話、立山町企業見学、インターンシップなどの学習により、自己を見つめ、自己理解・社会理解を深めるようにする。 ・担任面接の機会を重視し、生徒の進路意識を向上させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス、オンライン説明会、職場見学に意欲的に参加できるように適切な情報を随時提供する。 ・補習や全教員による個別指導などをおして基礎学力を定着させ、目標達成に向けて更なる進展を図る。 ・面談を重ねることにより、生徒の志望を確かなものとし、最後まで妥協しないよう指導に努める。また、保護者懇談会の機会を利用して、家庭との連携の緊密化を図り、協力を求める。
達成度	・98.3%	・92.4%
具 体 的 な 取 組 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスを通して進路意識を高め、社会理解を深めるように指導した。1 学年は立山町企業見学、校外進路学習、2 学年は校外進路学習を実施し、体験的に進路や職業を意識するようにした。 ・担任との面接は随時行い、進路意識を向上させるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスや就職応募前職場見学に意欲的に参加していた。 ・2 学期前半までは補習、2 学期後半からは主に個別指導をおして学力の定着と向上を図り、生徒一人ひとりの目標達成を目指した。 ・担任や面接担当と面談を重ね、本人や家庭の意思の把握に努め、納得のいく進路選択につなげるようにした。
評 価	A <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒が進路学習に積極的に取り組むことができたと答えていた。 ・担任との面接や総合的な探究の時間での取り組みと進路行事により、進路意識を高めることができている。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・面接練習や教科の個別指導などが丁寧で、アドバイスが良かったという意見が多かった。 ・個別指導や進学補習でわかるまで教えてもらえ良かったという意見が多い一方、自分のできるという意見もあった。
学 校 評 議 員 の 見 意	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の3年間で個々の生徒が自己の今と未来を見つめ、進む方向を見出していることに感心するとともに、生徒に寄り添い丁寧に支えている先生方には敬意を表する。 ・探究の時間を工夫し、進路意識向上につなげる取り組みは評価できる。今後も地域・行政等との連携の機会を有効に利用し、社会理解や進路学習の意識を高めてほしい。 ・3 年生の受験や就職に向けてのサポート体制がしっかりし、先生方の丁寧な指導に後押しされ、生徒が自信や安心に繋がっていることは大きく評価できる。 ・90%という高い目標値を達成しており、課題はほぼ解決されている。次年度以降、さらなる目標達成に期待する。 	
次 年 度 へ 向 け て の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2 年生とも探究の時間を有効に使い、将来の進路、職業を意識するような学習や行事を再確認し、充実させ、計画的に指導を積み重ねる体制をつくっていく。 ・生徒が自己理解と社会理解を深め、意欲的、主体的に進路を考えるとともに、日々の学習や様々な活動に自ら取り組み、深めていく機会を設けるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るための補習と、応用力を必要とする生徒にはさらに個別指導を行っているが、進路先が多岐にわたるため、より良い対応ができるよう指導体制を見直しながら実施していく。 ・面談を繰り返し行う中で本人の進路意識を明確にし、受け身ではなく、自ら十分に準備をして受験に臨めるよう対応する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

重点項目	(4 特別活動) 特別活動および図書指導の充実	
重点課題	ボランティア活動の充実および読書習慣の確立	
現 状	<p>・生徒会からの呼びかけに応じ、校内ボランティアにたくさんの参加がみられた。また地域社会でのボランティアも推奨しており、人に対する思いやりが持てるようになってきていると思われる。感染予防対策が緩和され活動が活性化されてきたため、ボランティア経験率が61%と向上した。目標には届かなかったがますますのボランティア参加率の向上を目指す。複数回参加する生徒はもちろん、初めて体験する生徒が多くなるような呼びかけをしていきたいと考える。</p>	<p>・読書好きの生徒がいる一方で、全体として図書に対する興味・関心は依然として低い。そのため、HRや授業での図書室の利用を除くと、自発的に図書室を利用するのは一部の生徒だけである。昼休みや放課後など、図書委員を中心に来館者は微増しているが、生徒全体には、広がっていない。</p>
達成目標	<p>①ボランティアに一度でも参加した生徒の割合</p> <p>70%以上</p>	<p>②一日当たりの平均図書室利用者数</p> <p>15人以上</p>
方 策	<p>・校舎内の活動にとどまらず、日常生活全般において生徒自らが出来るボランティア活動を目指す。</p> <p>・ボランティア活動に参加することによって生まれる多くの効果を学習させる。</p> <p>・地域に貢献できる活動を目指すが、身近な活動を重視する。</p> <p>・ボランティア活動体験率を確認するために、アンケート調査を実施する。</p>	<p>・図書室の利用者総数とクラス別の図書貸出総数を図書室前に掲示する。</p> <p>・授業やHRでの図書室活用を促進し、読書へのきっかけを拡大していく。また資料となる書籍の充実に努める。</p> <p>・図書委員会の活動の活性化を図り、図書室利用を促進する。</p> <p>・図書委員のアイデアを積極的に生かし、図書選定や特集コーナーを設け、読書の魅力をアピールする。</p> <p>・検定や小論文対策の書籍・資料コーナーをさらに充実させ、生徒が活用しやすいよう工夫する。</p>
達成度	<p>・校内外のボランティア活動に、一度でも参加した生徒の割合は55.7%であった。(校内ボランティアの参加率50.3%、学校外ボランティアの参加率13.2%)</p>	<p>・12月末現在での来館者数は1,706人で、一日平均11.6人であった。</p>
具 体 的 な 取 組 状 況	<p>・「花いっぱい運動」を夏、秋、冬の計3回、「五百石駅地下道清掃」を春、秋の計2回行った。</p> <p>・生徒会執行部より、ボランティア参加の呼びかけ(放送、ポスター掲示)を行った。</p>	<p>・図書委員や来館者から、図書館へ入れてほしい本のリクエストを受けつけたり、新着図書のコーナーを設置し、図書便りで知らせたりした。</p> <p>・授業やHRでの使用を呼びかけた。特に国語科や生活文化科での利用が多かった。</p>
評 価	<p>C</p> <p>・ボランティア参加率は、目標の「70%以上」を達成することができなかった。昨年度の参加率を下回っている。(昨年度61%)</p>	<p>C</p> <p>・来館者数は目標の8割弱しか達成できなかった。また、本の貸し出し数は1人平均1.9冊であった。(昨年度は1.7冊)</p> <p>・来館者が固定化してきた。放課後に勉強をしに来る生徒も減った。</p>
学 校 評 議 員 の 見 意	<p>・ボランティア活動は、部活動や生徒会の先輩の姿を見て参加につながったり、先生からの呼びかけで主体的に行動しようとする気持ちが育ったりと良好な関係性がうかがえる。</p> <p>・ボランティア活動には数値目標はあまりそぐわないように思う。参加生徒が活動から得る思いこそに大きな価値がある。最初の動機は何でもいいから、まずはやってみようという一歩を進める工夫が用意されているとよいのでは。</p> <p>・図書館活用に向け、アイデアを積極的に活かし改善に努めてほしい。特設コーナーで生徒の関心事などを問題提起するなど図書や新聞を通して発信してほしい。</p>	
次 年 度 へ 向 け て の 課 題	<p>・今年度校内ボランティアに参加した生徒の約7割は、年間を通じて複数回参加しており、活動後は達成感や充実感を持っていると思われる。まずは「一度参加してみる」ことを促していく。</p> <p>・学校外ボランティアの活動内容は多岐に渡っている。今後も「身近なこと」「自分ができるところ」をボランティア活動につなげていくよう促すことで、ボランティア参加率を向上させていく。</p>	<p>・授業での利用が減ったので新しく来た教員にも図書室利用をPRする。</p> <p>・授業や検定、進路等で必要となる文献や書籍を充実させ、探究活動での情報収集にも対応できるようにする。</p> <p>・教員だけでなく図書委員の力もうまく活用して工夫した企画を立て、委員会活動を活性化させることで図書室利用促進につなげる。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

重点項目	(5 その他) 専門科目(家庭)の学習指導の充実				
重点課題	専門科目の基礎的、基本的な知識と技術の習得を図るとともに、生活文化科での学びに対する達成感や充実感を高める。				
現状	・中学校での家庭科の学習内容の縮減や、家庭や地域における生活体験の希薄化により、家庭に関する基礎・基本が定着しにくく、創意工夫の意欲が乏しい生徒が増えている。				
達成目標	①家庭科技術検定における合格率・取得率		②卒業時における生活文化科に対する満足度 90%以上		
			合格率(受検者数に対する割合)	取得率(在籍者数に対する割合)	
	4・3級	食物調理 被服製作	100% 100%	100% 100%	
	2級	食物調理 被服製作(洋服) " (和服)	85% 80% 85%	85% 80% 50%	
	1級	食物調理 被服製作(洋服) " (和服)	85% 85% 85%	50% 33% 33%	
方 策	・家庭科技術検定合格に必要な学習指導、実技指導の徹底を図る。		・専門科目全般の学習指導および体験的総合的な学習の充実を図る。		
達成度	3級	食物調理 被服製作	100% 97%	100% 92%	
	2級	食物調理 被服製作(洋) " (和)	91% 70% 100%	91% 70% 60%	
	1級	食物調理 被服製作(洋) " (和)	94% 100% 90%	56% 37% 33%	
具 体 的 な 取 組 状 況	・4級、3級については、基本的な知識と技術の習得を目標とし、細やかに指導した。 ・2級、1級については、筆記試験および実技試験とともに、全体指導だけでなく放課後の個別指導に力を入れた。		・被服、食物、保育・福祉の科目を柱とし、各自の進路希望や興味関心に対応した教育課程を設定している。 ・専門性を高めるため、特別講師を招聘した授業の展開、検定取得に力を入れている。		
評 価	C	・欠席による筆記試験の未受験や実技試験で不合格となった生徒が数名いたため取得率が大幅に低くなった。三冠王を目指して7名が挑戦したが、取得生徒は6名であった。		A	・「大変良かった」「良かった」の合計が90%を超えた。少しずつ以前と同様な活動ができるようになってきたが、来年度も引き続き、生徒たちの学びを充実させたい。
学 校 評 議 員 の 意 見	・生活文化科の生徒は、資格取得などスキルアップを目指し意欲的に取り組んでおり、担任も全体指導だけでなく個別にも丁寧に指導されていることは評価できる。 ・雄山高校の大きな特色の一つである生活文化科での3年間の学びに満足している生徒が100%であったことは大変すばらしい。生徒が活動を通して力をつけ自信を持ってきていることは大きな成果と考えられるので、今後も生徒の学びを充実させてほしい。 ・技術検定1級の取得はハードルが高いと思われるため、今後の指導方法を検討される事を期待する。				
次 年 度 へ 向 け て の 課 題	・生徒の実態を十分考慮し、全体指導と個別指導を効果的に行い、目標を達成できるよう努めていきたい。		・在籍人数の違いがあっても、生活文化科における学びが充実したものになるよう、学習内容や方法、行事について再検討したい。		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)